

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 発信性のある自主事業を実施します。	自主企画展の年1回以上の開催	□新・今日の作家展2019 実施回数	年1回	年1回	本年度は、対話がひらかれる環境や状況について考え、そこから展開した対話や関係が継続されていく可能性を探る「対話のあとさき」を開催。出品作家全員のインタビューや作品図版、作家および作品解説を掲載した小冊子を会場無料で配布し、会期中に関連イベント5事業を実施するなど、展覧会についてより広く深く紹介しました。関連イベントの他、市民向け公開講座「野毛まちなかキャンパス」の一環となる講義と鑑賞会、近隣施設を巡る5館連携事業「紅葉ヶ丘まいらん」における本展ギャラリートourをおこない、市民の交流の場を提供するとともにより多くの市民に本展を紹介し、作家の活動や作品を周知しました。また会期終了後に、会場写真と関連イベントの対談・鼎談3本を文字起こし編集したテキスト、ワークショップの記録写真をまとめた記録集を作成し、展覧会アーカイブおよび作家資料の充実を図りました。	【成果】 ・「新・今日の作家展2019」では、〈対話〉という日常的に使用され、現代美術においても馴染みの深いキーワードを用いてテーマを設定し、親しみやすい切口から新進および中堅の4作家を紹介しました。対話がひらかれる環境や状況について考え、そこから展開した対話や関係が継続されていく可能性を表すような作品を展示したことにより、展示室における来場者の滞在時間が比較的長く、盛況のうちに終了しました。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため会期2日目以降開催中止となった「コレクション展2020」は港と水辺をテーマとした油彩、日本画、版画、写真等55点を出品。4セクションおよび特別展示を通じ紹介しました。特別展示の日本画家・牛田雞村の作品は久しぶりに3点を同時展示する貴重な機会でした。また、鑑賞サポーター8名が活動し、「描かれたスポット紹介」を市民ボランティアならではの視点で執筆、会場内に掲出して来館者の鑑賞の一助としました。 ・両展覧会ともに、作家インタビューや作品および作家解説などを掲載し充実した内容の小冊子を制作・無料配布し鑑賞を深めるツールとして活用いただきました。「コレクション展2020」は新型コロナウイルス感染防止のために開幕2日目から開催中止となったため、展示の様子に解説を加え3/1～15までブログで発信する工夫を行いました。 ・教育普及のための活動をするインターンとコレクション管理を担うインターンとに分かれて、6名も受け入れることができました。 ・初めて受け入れを行った昨年度に引き続き、特別支援学校の生徒の就業支援となる清掃業務やビルメンテナンスの体験実習生を6名受け入れました。これは共同事業体としての当館の特色を活かしたカリキュラムで、学校側からのニーズに応え、今後も継続して実施していく計画です。 ・横浜音祭り2019パートナー事業の実施、フォト・ヨコハマ2020連携事業の実施、民間画廊へのフォトヨコハマへの参加を呼びかけたり、「横浜画廊散歩」では1～3月号で写真展をクローズアップして掲載したり、広告掲載を行うなど、横浜市の文化事業を盛り上げることに尽力しました。	【評価できる点】 ・「新・今日の作家展」及び「コレクション展」を通して、市民の皆さんに現代美術に触れる機会を提供したことに加え、各企画展において小冊子の作成・配布を行い、鑑賞時の理解を深める取組を評価します。コレクション展では新型コロナウイルスの影響による開催中止に伴い、インターネットを通じた展示解説を行う等、代替方法を工夫し作品の鑑賞環境の提供に努めた点を評価します。 ・「横浜市こどもの美術展」では、前年度までと同様に、子ども達の創作活動の発表の場を提供することができました。また、同期間中に実施したいわいとしお氏の特別展示及びワークショップの実施を通して、子ども達がアートに触れる楽しさも提供することができました。参加者全員で作品を作るという手法も盛り込み、親子で楽しめる企画となりました。 ・これまで実施してきた各種アトリ講座等を通して、市民の皆さんに創作活動の場の提供及びきっかけづくりに貢献しました。これに加え、ボランティアやインターンを積極的に受け入れ活動を行った点を評価します。 ・昨年に引き続き地元町内会、伊勢山皇大神宮等との連携、紅葉坂5館連携事業に向けた調整等、地域との積極的な連携を推進した点を評価します。引き続き連携の継続により、地元の活性化に寄与することを期待します。	【更なる取組を求める点】 ・「新・今日の作家展」及び「コレクション展」は、より多くの人に現代美術に触れ、魅力を知ってもらう機会とするため、入場者数増に向けた広報の工夫等の取組に期待します。 ・特別支援学級の生徒の実習を受け入れ、就業支援を行うとともに、選定時の提案にあるインターン制度の目的(将来学芸員を目指す学生の実務経験、指導の場)を考慮した、積極的な受入にも継続して取り組んでください。 ・「横浜市こどもの美術展」は、毎年多数の応募が寄せられる、子ども達の貴重な発表の場です。継続開催に向けた運営の工夫に引き続き期待します。 ・ニーズの高い「ハマキッズ・アートクラブ」は、より多くの参加の機会を提供するため、キャンセル対策の継続した検討を期待します。
		□入場者数	4,000名	4,380名				
		□関連企画 事業数	2事業	5事業				
		□顧客満足度	4.0以上	4.3				
	2 収蔵作品を活用した展覧会の年1回以上の開催コレクション展	□コレクション展2020 実施回数	年1回	年1回	所蔵作品より選りすぐり、港と水辺をテーマとした油彩、日本画、版画、写真等55点を出品。4セクションおよび特別展示を通じ紹介しました。特別展示の日本画家・牛田雞村の作品は久しぶりに3点同時に公開する貴重な機会でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため初日のみ開催し以降中止となりました。関連事業では例年公表の鑑賞サポーターによるうつつ描かれた市内スポットのマップ揭示やトーク、木版画の摺り体験WS、小学生を対象とした探検ツアー、学芸員トーク等多彩な内容を計画していました。	【課題】 ・助成金や協賛金の継続的な獲得のための方策の検討が引き続き必要です。		
		□入場者数	4,000名	182名				
		□関連企画 事業数	2事業	0事業 (予定は4事業)				
		□顧客満足度	4.0以上	- (アンケート提出0)				
	3 「今日の作家展」のWEB公開を目的としたアーカイブの実施	■「今日の作家展」の記録の整理	実施	実施	「新・今日の作家展2019」の出品作家5名(鎌田友介、原美樹子、守章(守雅章+守喜章)、門馬美喜)のインタビュー収録を実施し、インタビュー映像を「新・今日の作家展2019」の会場で上映、ホームページで公開、小冊子に掲載しました。またインターン業務の一部として「今日の作家展」の過去のアルバムデータのデータベース化に着手しました。	-	A	
		□関連作家等へのインタビュー 実施数	1名	5名				
	4 収蔵作品等の積極的な公開とアーカイブの実施	□収蔵作品の作家へのインタビュー 実施数	1名	2名	収蔵作家の西村建子氏、林敬二氏のインタビューを実施し、「コレクション展2020」の会場で上映(ただし展覧会は2/29以降中止)、ホームページで公開するとともに小冊子でテキストを掲載しました。	A		
		■学芸員等を目指す学生を希望に応じて受入れ	受入	受入	教育普及に関心のある実技系や芸術を学ぶ大学生・大学院生3名が「横浜市こどもの美術展2019」自由参加ワークショップの運営、および青少年センターでの子ども対象ワークショップの企画・運営を体験しました。またアーカイブや現代美術を学ぶ大学生・大学院生3名がコレクション管理補助業務を担いました。	-		
	5 インターン制度の継続実施	□特別支援学校インターン生 受入数	4名	4名	特別支援学校の生徒の就業支援となるよう、清掃業務やビルメンテナンスの体験実習生として、3回、延べ9日間に渡って、4名を受け入れました。このほか中学生の職場体験学習として2名を受け入れました。	B		
		□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開事業数	1事業	2事業	「音を奏でる人体を描くクローッキーとデッサン」「バイオリンをつくらう」を開催しました。またフォトヨコハマ2020パートナーイベントとして、レクチャー「写真家 奥村泰宏・常盤とよ子夫妻が写した戦後の横浜」を開催しました。また「横浜画廊散歩」1～3月号で写真展をクローズアップして掲載しフォト・ヨコハマを盛り上げたほか、広告掲載もおこない広報面でも協力しました。	A		
6 横浜市の文化事業との積極的な連携	□「フォトヨコハマ2019」との連携 事業数	1事業	1事業		B			
	□コレクション展におけるサポーターの活用	年1回	年1回	育成研修を経て、「鑑賞サポーターによる描かれたスポット紹介」パネルを作成し、展覧会場に掲示しました。研修最終回および「鑑賞サポーターによるトーク」(3/8、14)は新型コロナウイルスの影響で中止。	B			

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 次代を担う子どもの創造性教育事業を実施します。	8 「横浜子ども美術展」の実施と新たな取組	□横浜市こどもの美術展2019 実施回数	年1回	年1回	B	全体の作品点数は昨年度より減少しましたが、申込件数は昨年と変わらず、個人での出品点数は過去5年で最多となっています。 ・いわいとしお『100かいだてのいえ』展 ・いわいとしお スペシャル絵本ライブ ・自由参加ワークショップ「みんなでつなごう！100かいだてのいえ」 ・ハマキッズ・アートクラブ「ダンボールでつくろう！100かいだてのいえ」作品展示 ・横浜みなとみらいホール連携 夏の子ども音楽会 ・「未来の音楽家、ハマのJACK金の卵たちによる演奏会」 「みなとみらいSuper Big Band ギャラリーコンサート」	【成果】 「横浜子ども美術展」では、子どもたちが意欲的に取り組んだ絵画作品で展示会場がいっぱいになりました。展示会のテーマを「家」とし、アーティストによる特別展示では、子どもたちに人気の絵本『100かいだてのいえ』の作者・いわいとしお氏の作品を、子どもと親、双方へのメッセージをもたせ紹介しました。また、自由参加ワークショップ、スペシャル絵本ライブ、ハマキッズ・アートクラブ作品展示もいわい氏の協力を得て実施し、展示会を充実させました。自由参加ワークショップは、参加者が自分の作品をほかの参加者の作品に繋ぐように壁に貼ることで大きな作品としていく内容で、例年と異なり、他者の作品にも自然と目が向く仕組みを含むものとなりました。「夏の子ども音楽会」では横浜みなとみらいホールと連携し、小学生から中学生が出演するコンサートを催し賑わいました。 本展は子どもたちの作品発表の機会であると同時に、アーティストやその作品、美術施設との出合いの場の役割も果たしており、子どもたちと、中学生から大人まで幅広い層のボランティアやインターンとの交流が生まれる場にもなっています。	(評価は前ページに記載)
		□入場者数	15,000名	16,257名	B			
		□出品数	2,300点	2,686点	A			
		□関連企画 事業数	1事業	6事業	A			
		□顧客満足度	4.0以上	4.5	A			
		■テーマ部門「家」の設置	設置	設置	-			
		■ワークショップスペースの設置	設置	設置	-			
		□サポーターの募集、育成のための育成研修 実施回数	年1回	年1回	B			
	□アーティストとの交流の場の提供	年1回	年3回以上	A				
	9 子どもの文化芸術の体験の場の提供と新たな取組 ハマキッズ・アートクラブ	□親子対象講座 実施回数	年3回	年3回	B	「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」(小学校高学年対象)は、新型コロナウイルスの影響で中止。 絵本作家いわいとしお氏は、関連ワークショップ、絵本ライブの他、サイン会や自由参加ワークショップや展示会場にも、積極的に会場入りいただき、来場の子どもの違との交流の機会を作っていました。	【課題】 「横浜子ども美術展」の出品者全員の作品を展示するという原則の継続が引き続きの課題です。展示会場のキャパシティを超えず、かつ十分な出品数を維持できるよう、近年の団体・個人の出品状況の動向をしっかりと把握し、工夫の検討が必要です。 また、「ハマキッズ・アートクラブ」では、当選者の当日欠席が多いため、対象年齢や講座の実施時期など様々な点を考慮して参加率を綿密に分析し、適切な当選者数を割り出すなど工夫した結果、落選者が多数いながら参加者が定員を下回る状況がやや改善されました。申込受付時期の設定など、さらなる対策を試行します。	
		□年長児対象講座 実施回数	年2回	年2回	B			
		□小学校低学年対象講座 実施回数	年3回	年3回	B			
		□小学校高学年対象講座 実施回数	年2回	年3回	A			
		□参加者数	200名	268名	A			
		□顧客満足度	4.0以上	4.8	A			
10 横浜市の文化事業との積極的な連携	□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業	B	横浜音楽祭2019パートナー事業 11/3「バイオリンをつくらう」			
11 横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野の子ども事業との連携	□3館で事業連携し、講座内容や対象年齢を考慮した講座開催のための企画会議 実施回数	年1回	年1回	B	応募の落選者へ他館の講座を周知しました。			
	■3館での相互広報の体制作り 応募の落選者へ他館の講座を知らせる仕組みの継続	実施	実施	-				
12 親子講座の開催	□親子で造形を楽しむ講座を開催 実施回数	年3回	年7回	A	ハマキッズ・アートクラブの親子対象講座、大人のためのアトリエ講座、企画展開連事業と、様々な枠組みで親子講座に取り組みました。			
13 教育機関等への支援の実施と新たな取組	アートティーチャーズ・プロジェクトとして、<美術の教師のための鑑賞レクチャー>等を実施 実施回数	年1回	年1回	B				
14 横浜市民芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力	■横浜市民芸術文化教育プラットフォームへの協力 学校プログラムの実施 実施回数	年1回以上	年5回	A	全面協力し、3校全5回実施しました。			
15 鑑賞教室等のアウトリーチ等の実施	□小学生、中学生、高校生を対象としたアーティストトークや鑑賞教室 事業数	1事業	4事業	A	①横浜みなとみらいホールワークショップ、②県立青少年センター子どもフェスティバル、③横浜市民芸術文化教育プラットフォーム学校プログラム小学校3校、④コミュニティハウスワークショップ講師コーディネート、その他、ハマキッズ・アートクラブ「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」も予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止。			

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 市民やアーティストの創造活動支援を実施します。	16 利用団体等が行う活動の支援の充実 (1)利用団体への丁寧な相談・助言 (2)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■事前打ち合わせの実施	実施	実施	-	展覧会開催1か月前に事前打ち合わせを実施したほか、随時相談に応じ、展覧会終了までサポートしました。	【成果】 ・これまでの人気講座(クロッキー、デッサン、古典絵画技法、日本画ワークショップ)を継続し、新たな試みとして油絵の連続講座、座学では幼児を持つ保護者を対象とした創作のためのレクチャーや横浜市民ギャラリーのコレクションを広く紹介するような講演を実施し、様々な切口から創造活動の場を提供しました。これまでの参加者のニーズに応えるとともに、新しい企画を実施したことにより、若い世代から高齢者まで幅広い層の新規参加者を迎えることができました。 ・「アートヨコハマ」、「横浜画廊散歩」、「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」ともに今年度も広告主を安定して確保することができ、広告料収入の目標額を大きく上回ることができました。 ・横浜市こどもの美術展でのサポーターは、中学生から高齢の方まで、幅広い年齢層が集まり、今年度はさらに教育普及を学ぶインターンも加わり、より賑やかな展覧会となりました。また、新型コロナウイルス問題のために、トークの実施はできませんでしたが、コレクション展2020での鑑賞サポーターの皆さんも活躍くださいました。横浜市民ギャラリーは市民アーティストの創造活動支援をしつつも、反対に支えていただいている側面もあります。 【課題】 ・WEBと紙媒体での発信の利点を精査し、より充実した美術情報の提供の仕方を検討していくことが課題です。	(評価は前ページに記載)
		■<ヨコハマ・アートナビ><アートヨコハマ><横浜画廊散歩>での事前広報	実施	実施	-	利用団体の展覧会情報を市民ギャラリーの情報誌やホームページ上に掲載するとともにLOD化されているヨコハマ・アートナビへ情報提供を実施しました。		
		■<ヨコハマ・アートナビ>への情報提供	実施	実施	-			
		□<アートヨコハマ> 発行回数	年3回	年3回	B			
		□<横浜画廊散歩> 発行回数	月1回	月1回	B			
	■ホームページでの展覧会の紹介 会期初日にホームページ上で公開	実施	実施	-	横浜市民ギャラリーを利用する全ての団体の展覧会期初日に会場の様子を撮影し、ホームページで公開するとともにSNSでも画像やハッシュタグを付ける等の工夫をしながら発信し、広報に協力しました。			
	17 文化芸術の体験の場としての講座等の実施 (1)文化芸術の体験の場としての講座等の実施 大人のためのアトリエ講座 (2)横浜市の文化芸術事業との関連講座の開催	□つくって学ぶ 講座数	年7講座	年7講座	B	つくって学ぶ ①「人体を描くークロッキーとデッサン」 ②「中世ヨーロッパの絵画技法でつくる羊皮紙の葉」 ③「油絵を描く」 ④「音を奏でる人体を描くークロッキーとデッサン」 ⑤「巨匠の素描に触れて学ぶ」 ⑥「はじめての日本画 絹に描く」 ⑦「人体を描くークロッキーとデッサン」		
		□きいて学ぶ 講座数	年3講座	年3講座	B			
		□参加者数	200名	260名	A			
		□顧客満足度	4.0以上	4.8	A			
		□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業	B	きいて学ぶ ①「親が知っておきたい“おえかき”の楽しみ方」 ②「親が知っておきたい～紙あそび・お絵かきあそび～」 ③「レクチャー 写真家 奥村泰宏・常盤とよ子夫妻が写した戦後の横浜」		
	18 美術情報の提供及び広報の充実 (1)横浜美術館との情報連携の強化 (2)ホームページ、SNS等の活用による充実したタイムリーな情報発信 (3)広報誌の定期的な発行	■広報連携の実施	実施	実施	-			
		■横浜市の文化政策上重要な事業について、映像情報等を交えたコーナーの設置と、広報する会期に合わせての紹介	実施	実施	-	エントランス・送迎車内モニターで横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野などの展覧会告知映像を放映し、併せてチラシを配架して広報しました。		
		■空室情報の更新 実施状況	随時実施	随時実施	-			
		■会期初日での展覧会情報の紹介	実施	実施	-	利用団体の展示作業が終了し次第、会場の様子を撮影し、ホームページ上で紹介しました。また、SNSでも展覧会を紹介しました。		
		□<アートヨコハマ>発行回数	年3回	年3回	B	アートヨコハマは当館事業の記事枠を広げ、情報発信の内容を充実させた他、広告枠も拡大することで広告料収入がアップしました。		
		□<ヨコハマ・ギャラリーマップ> 発行回数	年1回	年1回	B			
		□<横浜画廊散歩> 発行回数	月1回	月1回	B			
19 市民参画等の協働の推進による美術振興の担い手育成 (1)文化芸術の情報の場としての強化及び集客キャンペーンの実施 (2)自主企画展におけるボランティアの活用	■文化芸術の情報の場としての強化 情報コーナーの充実	実施	実施	-	展覧会の内容に合わせたチラシ配架、各地の公募展の案内を集めた「公募要項コーナー」、テーマ性を持たせたポスター掲出をするなど工夫しました。気軽に当館の図録や美術書籍等を手に取って読むことができるよう美術図書読書コーナーも来館者にお楽しみいただきました。			
	■キャッチコピーのパナー掲示による集客の継続	実施	実施	-	館外入り口にキャッチコピーを大型パナーにて掲載。ホームページに英語ページを設置、外掲示板に英語案内を掲出。			
	□ボランティアの活用 回数	年2回	年2回	B	・「横浜市こどもの美術展2019」自由参加ワークショップのサポート 31名(うち中高生13名) ・「コレクション展2020」鑑賞サポーター8名。「鑑賞サポーターによるトーク」(3/8、14)は新型コロナウイルスの影響で中止。展覧会場に「鑑賞サポーターによる作品に描かれたスポット紹介」を掲示。			

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 創造活動を介した人々のネットワークを形成します。	20 関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育間での相互交流の実施	■関連施設とのネットワーク インターネット情報、印刷物の相互配布	通年	通年	-	毎月地道に情報収集と編集、公開を続け、市内の美術関係者との綿密な連携を保ちました。 収集した情報は、当財団の「ヨコハマ・アート・ナビ」と連携し市内美術情報としても活用されました。 「横浜市こどもの美術展2019」および「コレクション展2020」で募集し、合わせて39名が活躍しました。(参加者数) 小学校アウトリーチを3校5日間実施しました。また小学校コミュニティハウスのワークショップ講師をコーディネートしました。	【成果】 当館発行物を利用したネットワークに加え、近隣の施設とのネットワークを以下のように強化できました。 ・紅葉ヶ丘地域による5館連携会議を毎月定期的に行い、秋には5館連携による事業「紅葉ヶ丘まいらん」を実施した他、県立青少年センターで行われた「子どもフェスティバル」にも参加しました。今後も安定して活発に地域連携事業が展開できるように「紅葉ヶ丘5館連携会議規約」を作成、締結。地域で芸術文化の魅力を発信するという基盤を固めた1年となりました。 ・黄金町と近隣の施設との地域連携を目指して、ミーティングを実施しました。 ・この他、より充実した地域連携事業を模索していくために、保育園や地域ケアプラザ等、施設への訪問や調査を行いました。来年度以降の事業の検討・実施につなげていきます。 【課題】 5館連携の中でも、市民ギャラリーは最も外れた場所に位置している関係から、一体化をどのように見せていくか、また市民ギャラリーは伊勢山皇大神宮と横浜成田山のちょうど間に位置しており、これら神社社も結ぶ方策を引き続き検討していきます。	(評価は前ページに記載)
		□民間ギャラリーとのネットワーク <横浜画廊散歩> 発行回数	月1回	月1回	B			
		□民間ギャラリーとのネットワーク <ヨコハマギャラリーマップ> 発行回数	年1回	年1回	B			
		■民間ギャラリーとのネットワーク 展示会のホームページへの掲載	掲載	掲載	-			
		■利用団体との交流 貸館利用打ち合わせの実施	通年	通年	-			
		□ボランティアの活用 横浜市こどもの美術展、コレクション展での募集	年2回	年2回	B			
		□アーティストとのネットワーク 大人のためのアトリエ講座 実施事業数	全10講座	全10講座	B			
		□アーティストとのネットワーク 展示会 実施回数	年3回	年3回	B			
□学校教育とのネットワーク アートティーチャーズ・プロジェクト 実施回数	年1回	年1回	B					
□学校教育とのネットワーク アウトリーチ 実施回数	年1回	年2回	A					

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 創造活動の発表の場を提供します。	公平・公正かつホスピタリティの高い貸出業務 (1)多くの市民に利用してもらえるような公平・公正で、透明性の高い施設貸出	□全展示室利用団体の抽選会 実施回数	年1回	年1回	B		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用団体に快適にご利用いただけるように運営を行いました。 ・町内会・伊勢山皇大神宮・横浜成田山・横浜市従会館と情報交換を密に行いました。 ・伊勢山皇大神宮への当館チラシラックの設置、町内会掲示板へのチラシ掲示を通じ、自主事業の周知にご協力いただきました。 ・近隣の公共施設5館(県立音楽堂・県立図書館・県立青少年センター・横浜能楽堂・横浜市民ギャラリー)で連携し、「紅葉ヶ丘まいらん」として、合同で事業を行うことが出来ました。当館では、「新・今日の作家展2019」において、県立青少年センターや横浜能楽堂のイベント後に参加者を当館までアテンドし、本展のギャラリーツアーに参加していただきました。 ・地域のほりがみラリーに協力し、エリアを通じて施設周知を図りました。 ・野毛地区振興事業協同組合、野毛地区街づくり会、および横浜商科大学の連携によって企画・運営される社会人と大学生の公開講座「野毛まちなかキャンパス」の第1回として「新・今日の作家展2019」の特別鑑賞とレクチャーを実施しました。 ・この他にも、紅葉ヶ丘地区、黄金町エリアで地域連携会議や企画等に参加、地域で広報をしあう関係づくりを行いました。 <p>【課題】</p> <p>地域文化施設のみならず、保育園や地域ケアプラザなど、連携先を広げて、地域貢献としての館の在り方を模索していきます。</p>
		□1～5室利用団体の抽選会 実施回数	月1回	月1回	B		
		■抽選会後の空き室 先着順に受付	実施	実施	-		
		■直前での利用申込み等の緊急時の、安全を確認した上での対応	実施	該当なし	-	直前での利用申し込みはありませんでした。	
		■利用団体からのアンケートを運営に活かすための職員内での情報共有	実施	実施	-		
		□利用団体からのアンケート 回収率	80%以上	98%	A		
		□施設スタッフ全員での定期ミーティング 開催回数	月1回	月1回	B		
	(2)利用団体への丁寧な相談・助言	■展覧会開催・終了までの利用打ち合わせ・展示作業及び展覧会期間中の運営サポートや広報面での助言協力	実施	実施	-	利用者の経験等を鑑みながら、きめ細やかな運営サポートを行い、利用者が安心して展覧会が開催できるよう支援しました。	
		□アンケート満足度	4.0以上	4.5	A		
	(3)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■<アートヨコハマ>への開催情報の掲載	実施	実施	-	<アートヨコハマ>へ開催情報を掲載しました。	
		■会場風景のホームページでの紹介、展覧会情報のfacebook・twitterへの掲載	実施	実施	-	全ての展覧会の初日に会場風景を撮影し、ホームページで紹介しました。	
		■利用者ごとの柔軟な対応	実施	実施	-	展覧会をより円滑に充実して行えるよう、利用者ごとに柔軟に対応しました。	
	(4)エリアを通じた施設周知	■近隣・コミュニティとのリレーションシップによりエリアを通じた施設周知を図るための近隣・コミュニティとの連絡会の開催	開催	開催	-	近隣施設と定期的な会議を開催しました。	
	(5)横浜市民ギャラリーあざみ野との連携による情報提供	■広報連携	実施	実施	-		
		■空き室情報の共有	実施	実施	-		

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2 利用促進及び利用者サービスの向上及びアイデアノハウの提案をします。	2 適切な施設情報発信等による認知度向上への取組強化	■施設情報の適切な発信による施設の認知度アップへの取組	実施	実施	-	ホームページやSNSで展覧会情報、自主事業情報、空き室状況、送迎車情報を発信し、施設の認知度アップに取り組みました。施設利用者が自ら発信できるよう、来場者向けWi-Fiの利用をご案内しました。青少年センター前の県立施設案内掲示板の一角に当館案内コーナーを新たに設置いただけました。	【成果】 ・前年度末に新・利用の手引きの発行を行ったため、常時配布は当年度より始まりました。令和2年度より改定されるサービス(作品保管庫事業)についても記載することで、1年間の周知期間を設け、令和2年度からの運用をスムーズにする狙いもあり、その効果は十分発揮されています。 ・紅葉ヶ丘文化施設の一角としての関係性を構築できたため、紅葉ヶ丘の県立文化施設内にも横浜市民ギャラリーを周知する掲示板が設けられたことは特筆できます。 ・利用日より半年を切った空き室は、10名未満の団体や個人も利用できる運用の開始から2年目。この制度を使う利用が入ることで、空き室を減らす効果が出ています。 ・アトリエについて告知する方策を多々とった結果、アトリエという貸し施設があることの周知が進んだこと、利用における優先事項の設定や、利用日数の上限撤廃という運用改定を平成31年度より始めた効果等もあり、アトリエの利用率が向上しています。新型コロナウイルス問題がなければ、目標を上回る予定でした。 ・美術に限らずジャンルを超えたアーティストの創造活動支援としては、舞台公演の稽古場と本公演用に、展示室やアトリエをご利用いただくことで、美術とは異なるジャンルでの利用について協力しました。 ・改善事例のホームページでの公開 実施状況につきましては、横浜市民ギャラリーコレクション展2020が、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、初日のみの開催となりましたこと、ホームページ上で少しでも多くの方に、展覧会をお楽しみいただけるよう工夫をし、公開しました。 ・エントランスに机・椅子・チラシラック等を常に利用しやすく設置することに加え、気軽に当館の図録や美術書籍等を手に取って読むことができるよう美術図書読書コーナーを継続配置しました。 ・町内会、伊勢山皇大神宮、横浜成田山とは定期的に情報交換をすることで、地域の一員として良い連携関係を築いています。町の美化行事への参加だけでなく、チラシを掲示していただくなど、施設のPR等にご協力いただきました。年末年始には近隣住民の方々へ駐車場をご利用いただくことで地域貢献の一助としています。今回は2度目となりますが、利用者数は初回よりも増えました。その他、施設周知と地域活性化の一環として、5館連携事業「紅葉ヶ丘まいるん」ギャラリーツアーを実施したり、県立青少年センター子どもフェスティバルに協力し、アウトリーチワークショップ「つくってあそぼう!」を実施しました。また野毛地区振興事業協同組合、野毛地区街づくり会、および横浜商科大学の連携によって企画・運営される社会人と大学生の公開講座「野毛まちなかキャンパス」の第1回として「新・今日の作家展2019」の特別鑑賞とレクチャーを実施しました。 ・送迎車につきましては、坂の上の立地から、送迎車を利用できることがありがたいというお声が多数です。 【課題】 ・送迎車については、今後さらに利用を希望するお客様が増えた場合の対応や、乗り場の位置をより分かりやすくするための工夫について引き続き検討します。
		■ホームページでの施設情報の周知	実施	実施	-	展示室・アトリエのバーチャルツアーをホームページに引き続き掲載したほか、PRタイムズなどのウェブメディアへの施設情報提供や、「横浜画廊散歩」の空きスペースへの広告の形で施設情報の掲載、文書の送付状への一文追記などできる限り周知に努めました。	
		■全展覧会のfacebook、twitterでの紹介	全展覧会	全展覧会	-	全展覧会を画像やハッシュタグ付きでFacebook、twitterで紹介しました。	
		■利用案内による施設情報周知	実施	実施	-	昨年度末に更新した利用の手引きを、各利用団体に活用いただきました。	
	3 空き室の有効利用等の利用促進のための取組の拡充	■積極的な施設貸出の営業	実施	実施	-	次年度の申込がない団体には積極的にお声掛けをし、会期が迫った空き室についてはチラシを作成し、館内に配架しました。また半年を切った空き室は、10名未満の団体や個人も利用できる運用変更の2年目ということもあり、その効果が上がっています。	
		■ホームページでの空き室情報の公開	随時	実施	-	ホームページで空き室情報を随時アップし、最新の情報を提供しました。	
		■美術関係者・団体とのネットワーク拡大による個別に営業をかけられる体制の構築	実施	実施	-	これまでの施設運営で蓄積した美術関係者・団体とのネットワークを利用し、台湾の台中市および台湾文化センターの利用につなげ、国際文化交流の場としての役割を果たすことができました。	
		■抽選に外れた全利用者への代替案の提案	実施	実施	-	抽選に外れた利用者に対しても、別日程での利用を提案するなど、施設の利用を促進するよう努めました。	
		■利用希望日より6か月を切った展示室空室の個人利用を可能とする運用	実施	実施	-	新規も、レポートでも一定数のご利用がともにあり、この運用の周知がなされてきたと判断できます。	
		■空室の個別の営業活動 横浜近郊の美術系大学への利用案内	実施	実施	-	希望者に、新しい「利用の手引き」を配布しました。高校・大学の美術学科や書道科などの卒業制作展の発表の場として、安定的にご利用いただいています。	
		■アトリエに特化した広報物の作成 過去利用団体への利用案内	実施	実施	-	アトリエ利用促進の告知動画を引き続き館内エントランスモニターや送迎車モニターで放映し、エントランスの休憩スペースのテーブル上に広告を設置するなど、宣伝に努めました。またアトリエ利用抽選に際し、優先順位を新たに設ける運用を年度始より開始。ご利用の手引き等で周知することで、アトリエ利用促進の一助となりました。	
		■美術関連の学校、学部への周知・営業活動	実施	実施	-	希望者に、新しい「利用の手引き」を配布しました。	
	4 利用率の向上と目標指標の達成(平成32年度目標) 展示室:90% アトリエ:35%	■来館者数	25万人	216,082人	C	3月のみ前年同月値として計算すると、238,134人。また、新型コロナウイルス感染問題がなかった場合の4月～3月(予約状況からの実績予測)では、展示室97%、アトリエ49%が見込まれていました。新型コロナウイルス問題がなければ、来場者数B、展示室利用率B、アトリエ利用率Aとなります。	
		■利用率 展示室	91%	90%	B		
		■利用率 アトリエ	43%	44%	B		
		■職員ミーティングでのお客様への対応の確認	随時	実施	-		
	5 要望・苦情への適切な対応とその共有の実施	■お客様へのアンケートの実施と共有	通年	実施	-		
		■苦情・要望の分析と共有	随時	実施	-		
		■速やかな対応と再発防止のための情報共有 実施状況	随時	実施	-		
		■横浜市との情報共有	随時	実施	-		
■改善事例のホームページでの公開		随時	実施	-	新規貸出物品について、ホームページで公開し、利用促進を図りました。「コレクション展2020」が新型コロナウイルス感染拡大防止のために初日のみの開催となりましたこと、ホームページ上で展覧会をお楽しみいただけるよう工夫をし、公開しました。		
6 市民の芸術活動の深化のための取組の実施	■市民が交流し、情報交換や知識収集のできる環境の整備	通年	実施	-			
	■町の美化や町内行事の参加だけでなく、共に施設のPR等を行う	実施	実施	-			
7 宮崎町親和会(町内会)や伊勢山皇大神宮との協力体制構築	■宮崎町親和会での事業周知	通年	実施	-	町内会掲示板へのチラシ掲示により、自主事業の周知に通年でご協力いただきました。		
	■伊勢山皇大神宮の参拝客へのアピール	通年	実施	-	伊勢山皇大神宮に当館のチラシラックを設置していただき、ポスター掲示とともに参拝客へのアピールを通年行いました。		
8 送迎車の最適な運用の実施	■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車椅子利用者等の利用にも配慮した)無料の送迎車の走行	実施	実施	-	特に配慮が必要なお客様からのお問い合わせには柔軟に対応し、安心してご来館いただけるようにしました。		
	■展覧会に即した着実な運行	実施	実施	-			
	■館内、ホームページでの周知	実施	実施	-			
	■運行データの収集	実施	実施	-			

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 市民ギャラリー所蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示をします。	9 収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施	■作品の定期的な点検確認	実施	実施	-	作品の点検を6日間にわたって実施しました。	【成果】 作品点検を継続しておこなうことにより、作品の状況を把握し、今後の修復計画などに役立てることができました。また「コレクション展」に出品する作品を優先して修復/クリーニングし良好な状態で展示することができました。また修復/クリーニングを終えた作品を撮影することで、良好な状態の画像データを蓄積することができました。 年間を通じIPMの手法に基づき収蔵庫や館内の環境をモニタリングし、状況を把握しました。収蔵庫は学芸職員による原則週1度の定期的な清掃をすとも、2ヶ月に1度害虫の有無やカビのサンプリング等の点検の上、専門業者による分析とフィードバックを継続し正確なデータを蓄積しました。年に1度専門業者による殺菌を行うほか、必要な場合は学芸職員が簡易消毒を行うなど、環境向上に努めました。 収蔵作品の出品履歴データについて全件の調査とデータ入力を完了しました。またその他データの更新を随時おこない、加えて、新カード作成に備えた事前作業を継続して実施しました。 日頃の調査・研究結果を活かし企画した「コレクション展2020」では港と水辺をテーマとした作品を油彩、日本画、版画、写真等から55点をよりすぐり展示。4つのセクションおよび横浜出身の日本画家・牛田雞村の作品を久しぶりに3点同時に展示する特別展示で構成し、多面的に作品を楽しむ工夫をしました。会場内には鑑賞サポーターが事前調査し、作品中に登場する市内のスポットを紹介するマップを掲示しました。また貴重な証言である出品作家・西村建子氏および林敬二氏のインタビューを収録し、会場内で映像を上映するとともに、全体の解説や図版と一緒に小冊子内にインタビューのテキストも掲載しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため2/29より開催中止となりましたが、展示の様子に解説を加え3/1～15まで毎日ブログで発信しました。 ホームページでは「横浜画廊散歩」表紙に掲載した作品12点について解説を公開し作品の魅力を伝えました。 【課題】 作品修復は今後も順次実施する必要があります。またIPMも今後も継続しておこなう必要があります。 作品出品履歴および収蔵経緯など、作品データの調査を進める必要があります。 作品点検等で得た情報を漸次データベースに反映する必要があります。 上記の総括として、作品の保守管理としては、収蔵庫の環境を踏まえ庫内環境の維持に努めるとともに作品の状態に異常が発見された際には市と対応を調整します。	(評価は前ページに記載)
		□作品の棚卸 実施回数	年1回	年5回	A	作品の棚卸を全5日実施し、71点を点検しました。		
		□館内の継続的なIPM点検による庫内環境の維持	隔月 年1回	隔月 年1回	B	隔月の職員によるIPM点検を5.6.7.10.12.2月に実施し、結果は都度専門会社が分析・同定しました。専門会社による全館点検は7/15に、B1パネル裏の消毒は6/17に実施しました。また週1回の庫内清掃を継続するとともに、庫内機器の点検を年4回実施しました。		
		■作品データの更新	実施	実施	-	作品点検時や調査を通じ明らかとなった情報は随時データベースやカード、ホームページの情報を更新しました。また作品図版の基盤としてきたポジフィルムの退色が激しいものより、新規撮影を実施し、図版データを更新しています(今年度撮影35点)。		
		■作品データベースの公開	実施	実施	-	ホームページ内の「収蔵作品検索ページ」を改訂し、検索結果の見え方の更新や表示項目を統一しました。作品データが更新された際はホームページの情報も更新し公開しました。		
		□コレクション展 実施	1回	1回	B	所蔵作品より選りすぐり、港と水辺をテーマとした油彩、日本画、版画、写真等55点を展示。4セクションおよび特別展示を通じ紹介しました。特別展示の日本画家・牛田雞村の作品は久しぶりに3点同時に公開する貴重な機会でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため初日のみ開催し以降中止となりました。関連事業では例年公表の鑑賞サポーターによるうし描かれた市内スポットのマップ揭示やトーク、木版画の摺り体験WS、小学生を対象とした探検ツアー、学芸員トーク等多彩な内容を計画していました。		
	□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	29点	A	ホームページでの収蔵作品紹介 12点 入江泰吉《ねこやなぎ》、塩田英二郎《ヘボン博士》、櫻庭彦治《横浜・山手(外人墓地と港)》、石踏純一《横浜追想(山下公園・インド水塔)》、秋岡美帆《そよぎ Sway》、園山晴巳《Sortie de Couleur E》、島田四郎《相模野富士》、西村建子《キリンと一緒》、山崎秀夫《風》、平野杏子《春林天》、柴田昌一《MM21(A)》、萩原英雄《港風景》 加えて、コレクション展2020は新型コロナウイルス感染拡大防止のため2/29より開催中止となりましたが、展示の様子に解説を加え3/1～15まで毎日ブログで発信することで、収蔵作品をホームページで紹介することができました(17点)			
	■作品修復 実施	実施	実施	-	作品の修復を10点実施しました。また入江正巳《黄塵浄土変》は当初クリーニング予定でしたが損傷が発見され、12月に横浜市が応急処置を実施しました。その他マット更新等の作業を2点実施しました。			
	10 資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施	■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な更新	実施	実施	-	作品全点の出品・貸出記録を見直しデータベースに入力しました。その他作品に付属する情報についても随時更新しました。		
		□コレクション展 実施回数	1回	1回	B	前掲済		
□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数		12点	29点	A	前掲済			

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 運営組織の構築及び組織的な運営をします。	11 適切な運営組織体制と人材の配置	<p>■人材配置 館長:1名、事業責任者:1名、運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:3名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:1名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:1名、施設管理担当者:2名、警備</p> <p>■勤務体制 ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じ、勤務体制を調整し、柔軟に対応する。 事務室スタッフ 原則常時5名以上 設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃2名 5名以上 閉館時:設備1名、警備1名</p>	配置	配置	-	館長:1名、事業責任者:1名、運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:3名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:1名、施設管理担当:2名、警備チーフ:1名、警備担当:3名、清掃チーフ:1名、清掃担当:3名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:4名	【成果】 ・事業・管理面とも適切な人材配置ができ、確実な施設運営ができました。各部署でのミーティングや全体会議で、課題や取組について議論することで情報共有するほか、外部研修の内容を共有し、全スタッフの施設運営に対するスキルアップができました。	(評価は前ページに記載)
	12 組織内の情報共有及び主要人材の能力担保 組織的な施設運営のための職務の効率化や職員間の情報共有、業務改善のための会議を定期的に実施すると共に、職員の能力担保のためOJT及び定期的な研修等を実施	<p>□定例会の実施 実施回数</p> <p>□研修 実施回数</p>	月1回	月1回	B	【課題】 ・人事異動や有期雇用職員の期限に伴う人材の確保が課題です。平素よりスタッフ間でのお客様対応等の情報共有や業務のローテーションで個々の経験値を高めることにより、スタッフのスキルの平準化を図り、常時高いレベルの利用者サービスを提供できる施設運営の保持に向け取り組みます。		
5 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	13 個人情報保護についての取組 ・個人情報規定及びマニュアル等に基づく適切な取り扱い ・具体的な業務についてルール化し、研修や定期的なミーティングによるスタッフの個人情報取扱いに対する意識の向上 ・メールやFAX、郵便物の送付時の個人情報漏えいの防止	<p>□過失による個人情報流出事故ゼロ</p>	0件	0件	B		【成果】 研修やミーティングを通じてコンプライアンスの取組や、危機管理についての知識や意識を共有し、職員全員で取り組むことができました。	
	14 情報公開についての取組	<p>■規定に基づく適切な対応</p> <p>■事業計画書及び事業報告書のホームページ(財団ホームページ)での公開</p>	実施	実施	-			
	15 人権尊重についての取組	<p>■全ての人に開かれた施設として人権に配慮した運営や接遇の実施</p> <p>□横浜市主催の人権講習への職員の参加、職場内の研修についても人権尊重の意識を高める取り組みを実施。</p>	実施	実施	-			
	16 環境への配慮に関する取組	<p>■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化</p> <p>■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「横浜3R(スリム)プラン」に基づく施設管理</p> <p>□施設内での空気環境測定 実施回数</p>	実施	実施	-			
	17 市内中小企業優先発注についての取組	<p>■物品購入・委託等の、特別な専門性が必要等の理由がある場合を除く、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」に登録された企業への発注</p>	実施	実施	-			
			年2回	年18回(延べ)	A	【課題】 今年度もコンプライアンス事故等ありませんでしたが、気を緩めることなくコンプライアンスや危機管理に継続的に取り組みます。指定管理者事務局本部では、毎月1回コンプライアンス委員会を開き、コンプライアンスに関する具体的な事例について検討されました。今後も継続してその検討内容を全スタッフに共有することで、日常の業務の危機管理に備えます。		
			年1回	年1回	B			
			年1回	年1回	B			
			年6回	年9回	A			
			実施	実施	-			

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設、設備の維持保全及び管理をします。	1 PDCAサイクルに基づく、計画的で高水準な施設管理業務の実施	■施設・設備について高水準で効率的な定期点検及び日常点検の実施	実施	実施	実施		<p>【成果】</p> <p>共同事業体である強みを活かして、施設の安心、安全、快適環境を維持しました。展示室の壁面は定期的な専門施行業者によるメンテナンスの実施に加え、当館スタッフによるリタッチを実施し、経費節減をしつつ展示壁をより良い状態に保つよう努めました。アンケートでの快適評価は4.5と高い評価に繋がりました。</p> <p>【課題】</p> <p>・収蔵作品の適切な管理のためには、施設管理スタッフが施設内の状況を鑑みながらこまめに手で空調機器をコントロールするなどの収蔵庫の温湿度管理と、専門家の助言や指導を受けたIPM(総合的有害生物管理)の継続的な実施が今後も必要です。特に収蔵庫の温湿度管理については人的コントロールを行う必要があります。</p> <p>・平成31年度は、全面的な外壁修繕工事が実施されましたが、全ての雨漏り箇所の改善には至りませんでした。また、2度に渡る強烈な台風の影響で、大きな被害が生じており、今後も引き続き、横浜市との情報共有も密にしながら、施設の長寿命化を図ります。</p> <p>・展示壁面については、構造上、定期的な壁面メンテナンスは必須と考えます。次期指定管理での必要経費化の提案を検討しています。</p>	
		■施設(建築物)、設備及び備品の破損、不具合等の異常時の利用者の安全の確保、施設の運営に支障をきたすことのない適切な措置、速やかな報告の実施	実施	実施	-			
		□設備の過失による運転停止事故ゼロ	0件	0件	B			
	2 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できる管理の実施	■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できる管理の実施	実施	実施	実施		施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できるような管理を実施しました。展示室の壁面は定期的な専門施行業者によるメンテナンスの実施に加え、当館スタッフによるリタッチを実施し、経費節減をしつつ展示壁をより良い状態に保つよう努めました。
			□アンケートでの快適評価	4.0以上	4.5	A		
			□施設ハード面での過失による事故ゼロ	0件	0件	B		
	3 保守点検、備品管理、環境維持の実施	■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	実施	実施	実施		
			■備品の適切かつ良好な状態での管理	実施	実施	-		
			■廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルに努める	実施	実施	-		
	4 収蔵庫の適切な管理の実施	■空調管理の実施	■空調管理の実施	室温20℃(±5℃) 湿度50%(±5%)	実施	C		美術品保護に必要な温湿度管理のために、データを蓄積しながら可能な限り空調管理を実施しましたが、年間144日は湿度の未達および超過が発生しました。
			■収蔵庫内及び収蔵庫周辺の定期的な清掃	週1回 適宜	実施	B		定期的に清掃し、美術品保護及び環境維持を行いました。
	2 小破修繕へ取組みます。	5 効果的な小破修繕への取組	■施設管理に対する全職員の意識の向上	実施	実施	-		情報共有のほか会議で取り上げるなど、施設管理に対する全職員の意識の向上に努めました。
■全職員及び横浜市との情報の共有			実施	実施	-	修繕に関する施設内での情報共有のほか、モニタリングや設備トラブル報告書を通して横浜市と情報共有をしました。		
■全修繕履歴の年度毎のデータ化			実施	実施	-			
6 保守管理の専門技術を活かした、迅速かつ臨機応変な突発修繕への対応		■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対応	実施	実施	実施	-	豊富な経験を有する共同事業体の専門職員を中心に、突発的な修繕を必要とされる場合でも速やかに対処しました。	
		7 多角的視点からの小破修繕箇所の早期発見	■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	-		

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理を行います。	事故防止体制・緊急時のための方針と対策 (1)警備スタッフ及び機械警備による切れ目のない万全の警備体制の実施	■警備専門スタッフと機械警備による万全の警備体制の実施	実施	実施	-	【成果】 事故防止体制・緊急時のための方針と対策として警備専門スタッフ及び機械警備による警備体制を敷くとともに、日頃から連絡・報告体制を整えました。新型コロナウイルス感染症拡大防止策については、横浜市からの通達が届くよりも前から、自主的に対策を講じていました。世の中に不安な機運が高まっていく中、臨時休館入りした後も、電話対応は継続し、ご利用者や来館者の皆さまに寄り添う対応を心がけました。 【課題】 新型コロナウイルス感染症が全世界に広がっている中、当館でも展示会の中止が続出。施設再開に向けて、これまでにない発想での対応策の検討が求められています。	(評価は前ページに記載)	
		■業務の基準に基づく警備の実施と利用者の入退出の適切な管理	実施	実施	-			
		□過失による事故ゼロ	0件	0件	B			
		■業務を遂行する上での、定められた関連法規等の遵守	実施	実施	-			
		■警備計画書及び巡回警備計画書の作成とそれに基づく警備業務	実施	実施	-			
	(2)関連法規の遵守	■警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有	実施	実施	-			業務日誌を毎日作成及び閲覧し、情報共有を図りました。
		■警備スタッフによる施設の駐車場だけではなく周辺道路への防犯対策の実施	実施	実施	-			近隣の防犯対策の実施や交通状況への対処など、周辺道路に対しても対応し、地域の一員としての責務を果たしました。
		■救急セットやAEDの完備	実施	実施	-			全スタッフがAEDの取り扱い方やその重要性について理解している体制を作りました。
		■AED取扱い研修未受講の新配属スタッフ等対象に実施	年1回	年1回	B			
		■毎日のAEDのセルフメンテナンスチェックの結果確認	実施	実施	-			
■職員による施設内巡回による衛生管理の徹底	実施	実施	-					
■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み予防のための掲示の実施	実施	実施	-	新型コロナウイルス、インフルエンザ等の予防啓発のための掲示を実施。				
8 (3)警備計画及び報告書の作成と適切な報告の実施	■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み消毒剤の設置	設置	設置	-	手指用消毒剤は従前より常備設置しており、新型コロナウイルス感染症予防にも対応できました。			
	■鳥インフルエンザへの留意と異常時の迅速な対応	実施	実施	-	【成果】 消防訓練では、地震を想定しての訓練を行いました。シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを引き続き行いました。また、年度末には、転倒防止策が施されていない箇所の全件調査を行った上で、転倒防止金具の設置を実施したり、火災発生時の避難路の確保のために、鍵の改良を行うなど、設備面での防災対策も進めることができました。二度に渡る、日本全国で大きな被害をもたらした台風一過では、設備スタッフの迅速な対応で、被害の拡大を食い止めることができました。			
	■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底	実施	実施	-				
	■緊急時の対応の明確化	実施	実施	-		【課題】 少人数での勤務日であっても迅速な対応が間違いなくできるか、館内の職員スタッフでどう協力し合うか、またいかに利用者のみなさんの協力を得ることができるかが、重要なポイントだと認識しています。引き続き訓練や検討を重ねて行きます。		
	■緊急連絡網の作成と市への提出	実施	実施	-				
■関連法規に基づいた届出等の実施	実施	実施	-					
■日頃からの危機意識の向上	実施	実施	-					
■全スタッフへ対象の訓練の実施	実施	実施	-					
9 インフルエンザ等の感染症対策	□危機管理マニュアルに基づくスタッフの消防訓練 実施回数	年2回	年9回	A	本番さながらの状況を作り出した地震を想定した防災訓練。および横浜市防災センターでの研修を活用した消防訓練を行いました。			
	■自衛防災組織の設置と継続的な防災訓練の実施	実施	実施	-	9月の令和元年房総半島台風、10月の令和元年東日本台風と2回に渡る台風の襲来時には、来館者への情報提供や臨時休館とする対応を行いました。また、年に9回消防・防災訓練をしたほか、地震発生時には館内点検を実施しました。			
	■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす	実施	実施	-		新型コロナウイルス感染症については、横浜市との協議のうえで、対策を実施しました。また2度に渡る台風の際には、事前の安全対策、台風一過後の館内安全に十分な注意を払い、迅速に対応しました。		
	■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄	実施	実施	-				
	■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組	実施	実施	-				
■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対処と原状復旧体制の確保のための取組	実施	実施	-					
■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす	実施	実施	-					
10 緊急時の連絡体制・役割分担	■情報管理の一元化及び適切な報告	実施	実施	-	【成果】 消防訓練では、地震を想定しての訓練を行いました。シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを引き続き行いました。また、年度末には、転倒防止策が施されていない箇所の全件調査を行った上で、転倒防止金具の設置を実施したり、火災発生時の避難路の確保のために、鍵の改良を行うなど、設備面での防災対策も進めることができました。二度に渡る、日本全国で大きな被害をもたらした台風一過では、設備スタッフの迅速な対応で、被害の拡大を食い止めることができました。			
	■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上での適切な対応	実施	実施	-				
	■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄	実施	実施	-				
	■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組	実施	実施	-				
	■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対処と原状復旧体制の確保のための取組	実施	実施	-				
11 平常時の防災対策	■緊急時の対応の明確化	実施	実施	-	9月の令和元年房総半島台風、10月の令和元年東日本台風と2回に渡る台風の襲来時には、来館者への情報提供や臨時休館とする対応を行いました。また、年に9回消防・防災訓練をしたほか、地震発生時には館内点検を実施しました。			
	■緊急連絡網の作成と市への提出	実施	実施	-				
	■関連法規に基づいた届出等の実施	実施	実施	-				
	■日頃からの危機意識の向上	実施	実施	-				
	■全スタッフへ対象の訓練の実施	実施	実施	-				
12 災害発生時の取組	■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄	実施	実施	-	【成果】 消防訓練では、地震を想定しての訓練を行いました。シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを引き続き行いました。また、年度末には、転倒防止策が施されていない箇所の全件調査を行った上で、転倒防止金具の設置を実施したり、火災発生時の避難路の確保のために、鍵の改良を行うなど、設備面での防災対策も進めることができました。二度に渡る、日本全国で大きな被害をもたらした台風一過では、設備スタッフの迅速な対応で、被害の拡大を食い止めることができました。			
	■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組	実施	実施	-				
	■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対処と原状復旧体制の確保のための取組	実施	実施	-				
	■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす	実施	実施	-				
	■情報管理の一元化及び適切な報告	実施	実施	-				
13 帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上での適切な対応	実施	実施	-	【課題】 少人数での勤務日であっても迅速な対応が間違いなくできるか、館内の職員スタッフでどう協力し合うか、またいかに利用者のみなさんの協力を得ることができるかが、重要なポイントだと認識しています。引き続き訓練や検討を重ねて行きます。			
	■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄	実施	実施	-				
	■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組	実施	実施	-				
	■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対処と原状復旧体制の確保のための取組	実施	実施	-				
	■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす	実施	実施	-				

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
IV収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 収支の適切な構造及び収支バランス	1	(収支予算書及び報告書) ■適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	-	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止のために、3月の貸館利用がすべてキャンセル(全額返金)となったため、最終的な施設の利用率収入実績値は目標額を下回りました。このほかの収入については駐車場利用率、講座料収入(有料コンサートの実施を行わなかったため自主事業収入としては減収)、助成金や広告料収入も好調だった結果、全体の収入合計は、目標値よりも188万円も増加となりました。 支出に関しては、助成金獲得により企画展の充実に充当したことにより、目標値よりも支出が増加していますが、光熱水費支出が抑えられたこと、人件費が職員の配置の関係で予算値を下回ったことから、支出全体では200万円の削減。最終的に400万円の黒字となりました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支は最終的に400万円の黒字となりましたが、ホームページの安全性や利便性の確保のために、全面改訂を令和元年度より開始しており、2年度はその開発のための費用や時間を割くことを事前に想定しての黒字となっています。今後も精緻な執行管理に努めてまいります。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主事業の企画にあたっては各種助成金の獲得に努めた点を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も文化芸術の拠点として、質の高い自主事業展開を持続するために、収支バランスにも配慮した企画立案及び管理業務を行ってください。
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	2	利用率の向上による利用率収入の増加への取組	1,100万円	1,047万円	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示室はほぼ100%の高い利用率で推移し、利用率収入も目標額に達することを見込んでいましたが、新型コロナウイルス感染防止のために、3月の貸館利用がすべてキャンセル(全額返金)となりました。このため、最終的な実績値は目標額を下回りました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場利用率、助成金・協賛金、広告料収入、講座料収入は目標を大きく上回ることができました。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務の効率化により超過勤務を抑制しつつ、適切な施設及び設備管理を実行するとともに、経費削減に努めることができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 天候等の外的要因に大きく左右されやすい光熱水費の執行管理が課題となります。移転時から継続して建物管理に取組んできた専門スタッフの実績と経験を活かし、より密な室内環境のモニタリングに努め、効率的な光熱量の使用を行います。今年度より導入したデマンド監視装置が役立っています。
	3	周知等による駐車場の利用率収入の増加への取組	120万円	153万円	A		
	4	助成金・協賛金(広告料収入)の獲得	130万円	143万円	A	<p>助成金:公益財団法人花王芸術・科学財団50万円、芸術文化振興基金1,38万円、この他に現物協賛もいただきました。</p> <p>■広告料</p> <p>広告枠を増やしたり、広告主が継続して掲載を希望したことなどから、安定した広告料収入につながりました。</p>	
	5	周知等による講座料収入の増加への取組 周知等により事業参加者数の増加を目指す	114万	129万円	A		
	6	自動販売機の販売収入の増加への取組	30万	33万円	A		
	7	自動販売機の販売収入の増加への取組	40万円	28万円	C	<p>目標達成のための努力もしましたが、3月はほぼ1か月間臨時休館となったことも打撃。</p>	
3 経費削減等効率的運営の努力	7	■横浜市に準じた経理規程に基づいた、支出を最小限に抑える取組	実施	実施	-	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務の効率化により超過勤務を抑制しつつ、適切な施設及び設備管理を実行するとともに、経費削減に努めることができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 天候等の外的要因に大きく左右されやすい光熱水費の執行管理が課題となります。移転時から継続して建物管理に取組んできた専門スタッフの実績と経験を活かし、より密な室内環境のモニタリングに努め、効率的な光熱量の使用を行います。今年度より導入したデマンド監視装置が役立っています。 	
		■事務用品の再利用化の推進	実施	実施	-		
		■広報物の発送の効率化による経費の削減	実施	実施	-		
		■計画的な経理処理による手数料の削減	実施	実施	-		
	8	■施設・設備の効率的な運用による経費削減	実施	実施	-		
		■施設・設備の現状把握と修繕計画による支出の平準化と修繕費の抑制	実施	実施	-		
		■早期の修繕実施による長期における経費削減	実施	実施	-		
	9	■職員の業務の効率化への意識を統一するための職員会議や面談	実施	実施	-		
		■業務の発注へのコスト意識及び職員の超過勤務削減による経費削減	実施	実施	-		
	10	■作家や講師との協働での事業企画による経費削減	実施	実施	-		<p>作家や講師に事業の趣旨や意義を伝え共感していただく事で、経費の工夫など経済的にも協力していただきました。また、横浜美術館や横浜市民ギャラリーあざみ野と展覧会や講座で備品を貸し借りし、経費削減に努めました。</p>
■企業からの現物協賛の受入れ等による経費削減		実施	実施	-			

令和元年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
	1					【成果】 【課題】	

評価項目		R1年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標		説明		自己評価	行政評価
	1					<p>指定管理期間の4年目にあたる令和元年度(平成31年度)も、管理運営や事業ともこれまでの経験や蓄積を生かしながら「文化芸術活動拠点としての機能の強化」「市民文化活動や創造活動に対する支援の強化」「次世代を担う人材の育成の強化」といった3つの基本方針に沿って取り組みました。</p> <p>貸館利用については、今年度もご利用団体と良い関係を築けました。また昨年より始めた個人の展示室利用については、その利用が着実に入っていることから周知も進み、利用者ニーズをとらえたと考えましょう。</p> <p>自主事業では、助成金の獲得など、積極的な外部資金の導入に成功、展覧会の内容をより充実し、市民の皆さまにご覧いただけました。顧客満足度や各事業参加者数等、業務全般において目標をほぼ達成できました。</p> <p>インターンやボランティア、近隣の施設など、様々な館外の方々と連携も強化できた年となりました。</p> <p>長年の懸念事項であった雨漏りが、外壁工事を行っても残念ながら解決に至りませんでした。引き続き横浜市と情報共有のうえ、適正な施設管理を続けてまいります。</p> <p>設備面を除けば、上記のように順調に歩んでいた令和元年度でしたが、年度末に見舞われた新型コロナウイルス禍により、事態は一変。新しい生活様式など、利用団体・利用者・展示業者、来場者、勤務する職員、この施設に関わる人々の感染予防について、横浜市と協議しつつ、安全な運営に努めていきます。</p>	<p>・各種の企画や施設・設備の提供を通して、市民の皆さんに文化芸術の活動の機会や発表の場を提供するという施設の役割を果たすことができました。</p> <p>・施設運営では、安定した運営を継続したことを評価します。貸室の利用率向上のための取組を継続的に行い、成果を上げることが出来ました。今後も施設の特性を活かした魅力ある事業と、安定した施設運営を継続するとともに、これまでの指定管理者選定評価委員会や行政評価における指摘をふまえた、運営の向上に引き続き取り組んでください。</p>